

第54回日本糖尿病学会九州地方会

ワークショップ1

輝け！ 女性糖尿病医

公益財団法人慈愛会 慈愛会クリニック
糖尿病内科 部長 河野泰子

表1 わが国の糖尿病療養指導発展の歴史

時期	内容
昭和30年以前	診療の一部として実施
30年頃	糖尿病教室始まる(堀内、三村ら)
33年	日本糖尿病学会設立
36年	日本糖尿病協会(日糖協)設立 学会に協会療養指導委員会発足 『糖尿病ライフ さかえ』発行
38年	小児サマーキャンプ開催(丸山ら)
39年	教育入院システム導入(堀内ら)
40年	『糖尿病食事療法のための食品交換表』と 『糖尿病の治療の手びき』出版
42年	「糖尿病学の進歩」の開催開始
53年	同上に「糖尿病の療養指導」併設
56年	インスリン自己注射の保険適応→指導開始
61年	血糖自己測定 of 保険適応→指導開始
62年	日糖協の社団法人化→療養指導者の育成促進
平成元年	日本糖尿病学会「認定医」制度発足
5年	糖尿病療養指導士認定制度の検討開始
8年	日本糖尿病教育・看護学会設立
9年	日本病態栄養学会設立
12年	日本糖尿病療養指導士認定機構発足
13年	第1回 日本糖尿病療養指導士認定試験実施

第10回 リリー インスリン50年賞表彰式



さかえ 4, 2013



第10回 リリーインスリン50年賞表彰式より

第10回 リリー インスリン50年賞表彰式



第10回 リリーインスリン50年賞表彰式より



第1回小児糖尿病全国ジャンボリー S. 54. 7. 29

小児糖尿病サマーキャンプ(鹿児島)参加者数

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	1970 昭和					1975					1980				
	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
男	1	2	2	2	3	4	7	7	8	18	9	13	10	10	9
女	3	2	4	4	5	9	9	8	12	27	23	16	22	27	14
計	4	4	6	6	8	13	16	15	20	45	32	29	32	37	23

回	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	計
	1985 昭和					1990 平成					1995		
	60	61	62	63	元年	2	3	4	5	6	7	8	
男	4	5	5	8	10	10	4	11	9	7	6	8	192
女	16	20	13	15	12	13	10	12	8	12	15	13	344
計	20	25	18	23	22	23	14	23	17	19	21	21	536

感謝状

鹿児島つぼみの会殿
鹿児島大学第一内科学教室殿

貴会は小児並びに若年糖尿病患者の育成に深い御理解を示され去る昭和四十五年以来実に二十一年間にわたりサマーキャンプの開設に盡力せられ患児たちの生活指導並びに療育指導に大きな貢献を果されかつ患児たちの生きる喜びと希望を与えられましたその功直に顕著にして他の亀鑑と仰ぐに足る依つて茲に本状並びに記念品を贈り深甚なる謝意を表します

平成元年七月二十八日

社団法人日本糖尿病協会

理事長 橋本 関蔵

同 小児糖尿病対策委員会

委員長 小室 寛



東京女子医大糖尿病センターに勤務中の1980年代の事である。鹿児島で活躍している糖尿病学会の友人から、お電話を頂いた。

「10歳発症の1型糖尿病で病歴がもう20年以上になっている方であるが、20年を超えても妊娠継続は可能でしょうか」という大変患者さんを思う心のこもった質問であった。

「糖尿病暦が20年でも30年でも、ひどい増殖網膜症や腎臓機能が低下してしまった腎症をもっておらず、血糖コントロールさえ良ければ、何ら問題は無い」とお答えした。

1型糖尿病の中には、1歳や2歳で発症する方がいて、結婚適齢期になるともう病歴は、20年や30年になるのであるが、私の妊婦治療経験例の中でこの症例は長い罹病期間をもつ最初の方であった。

主治医の先生は「合併症が全くないので妊娠を継続させます」と大変お喜びの様子であった。その後無事出産された報告は受けたと思うが、東京と鹿児島という空間的距離もあり、そのことをすっかり忘れていた。

それから約32年経た2012年11月7日、第10回リリーインスリン50年賞の受賞式に参列して、私は嬉しい悲鳴を上げてしまった。

「32年前先生にアドバイスを頂いて妊娠を成功させた方が50年賞を頂くのです」と紹介されてとても嬉しかった。

「リリーインスリン50年賞とは」

インスリン治療を50年以上継続してこられた患者さんの長年の努力を称えるとともに、他の糖尿病患者さんが前向きに治療に取り組めるような目標となり、勇気と希望を与えることを願い、1974年にイーライリリー米国本社が設立した賞。

これまでに、米国を中心に約1500人の患者さんが受賞されています。

世界初のインスリン製剤発売から80周年を迎えた2003年に、わが国においてもリリーインスリン50年賞が創設されました。

ワークライフバランスを上手に

女性医師支援事業

1. 医学生、研修医等を
サポートするための会
2. 「女性医師の勤務環境の整備に関する
病院長、病院開設者・管理者等への
講習会」の実施

若い研修医は妊娠・出産・育児等の時期には、保育所等を活用し、お互いにワークシェアしながら働き続ける努力をする。

専門医や認定医資格などを取得し、医療現場への社会復帰に役立つ自分の付加価値を高める。

- 周囲の方々に対する感謝の気持ちを忘れない。
- 医師として社会に貢献する義務があることを認識し、女性医師として生きていくための強い意志を持つことが求められる。

日本医師会主催の男女共同参画フォーラムに医学生の立場から、参加した女子学生は

- 育児と学業のバランスを語り、自分たちは社会に育ててもらっていると意識する。
- 社会に貢献する義務がある。
- 働き続けるために、自分らしく頑張るには、何がベストかを考える。
- 自分のベストをアピールして協力を得る。
- 周囲への感謝を忘れない。

ご静聴ありがとうございました。